

発表テーマ：解剖技術研修報告_札幌医科大学

発表者氏名：浅野文子 技術分野：生物・生体 発表形式：口頭発表

所属：生物・生体技術支援室 生体機能解析技術グループ

正岡 実（生物・生体技術支援室 生体機能解析技術グループ）

高木 佐知子（生物・生体技術支援室 生体機能解析技術グループ）

程 晶磊（生物・生体技術支援室 生体機能解析技術グループ）

概要(12pt)

日常臨床の現場において手術手技などの高度な医療技術の訓練と習得が困難になりつつある現状を踏まえて、現状の法制度のもとでご遺体を卒後教育にも利用できるようにするため、2012年3月に日本外科学会と日本解剖学会が連名で「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を制定しました。名古屋大学では2014年に「クリニカルアナトミーラボ名古屋」(Clinical Anatomy Lab NAGOYA: CALNA(カルナ))が設立され、それに伴い医学部解剖学で通常使用するホルマリン固定法の他に臨床解剖用のThiel固定法を導入しました。Thiel固定法では感染性を抑えつつ、関節・筋肉・血管・臓器などを非常に柔らかい状態で固定することが出来、生体に近い状態での手術手技実習が可能です。

札幌医科大学ではThiel固定法を全国で先駆けて導入し、学内外の多くの外科系医師のトレーニングを行っています。またこの他に、未固定凍結保存(Fresh)法も導入し、生体に近い環境での間接や運動器の臨床解剖研究を行っています。今回、札幌医科大学を訪問し献体固定方法技術交流会と施設見学を行ない幾つかの所見を得る事ができたので報告いたします。